

志津 里山自然学校 NEWS

文責：奥村 平一

ホタルの舞で感動！？

保護者、こども、スタッフ総勢50名が梅雨の晴れ間の6月10日（土）19時馬場会館集合。

事前学習として講師の鈴木道弘さんから「光を放つが熱は出さない、生育場所、相手を探すために雄が飛び交うことやホタルの一生など」ホタルにかかわる話。その後「ホタルとカエルさん」の紙芝居を通じてお互い



が助け合って生きていく姿を学習した。参加者は物音ひとつ立てずに熱心に聞き入っていた。

子どもたちは闇夜の中で放つホタルの光を見つけては「あ！いたいた」とか「あそこ、あそこ」と指をさしながら観察していた。



↑手の上のホタル

ホタルの観察後は再度会館に帰り、ホタルが飛んでいた場所を地図

に落とし確認したり今日の感想を親子で記録して21時解散となった。

参加していた古老は「昔は菜種の木で乱舞しているホタルを取っていたが、今では飛んでいるホタルを見るだけになった。」と環境の変化と一抹の寂しさを感じていた。

講師の鈴木道弘さんは「開発が進みホタルは激減。人間にとって便利になったがホタルには生活しにくくなった。ホタルと共存・共生できる環境づくりが必要」と訴えていた。

キャンプファイヤー用の薪できる

6月4日（日）午前10時から午前中、水野親子と角親子がまき割機械やキンドリングクラッカーを使ってキャンプファイヤー用の薪づくりに挑戦した。ロルフさんは機械を安全に使用する指導をする。小学生低学年でも機械の使える部分があり頑張って取り組んでいた。



【参加者の声】

- ◆頭や手に乗せられたことが心に残った。
- ◆ホタルが5日しか生きられないことを知ってかわいそうだと思った。
- ◆川がザー？となっている所にたくさんいた。
- ◆ホタルを見つけたこと人生初です。

